

公募企画 総括

作成 中尾光(北海道大学)

本企画は”夏の学校の今後を考える”というタイトルで、近年の夏の学校の大型化に伴う事務局の負担の大きさに注目し、今後夏の学校が取るべき対策について議論を行った。

企画の前半は講演者(中尾)により夏の学校事務局の構成、仕事内容とその負担を紹介し、後半は来年度の事務局が実施する予定の対策を基に今後取るべき対策について議論を進めた。

議論では、事務局担当地区の 5 年持ち回り制について多くの意見が出た。主な意見は持ち回り、会場を 3 年程度の周期で固定するというものが多くでた。また、それにより生じる特定の大規模大学に負担が集中するという問題も小規模大学も運営サポーターなどに積極的に参加することで、不公平は生じないと考える参加者が多いようだった。

本企画で具体的な対策が決定されることはなかったが、参加者の事務局への理解は深まったと思われる(要アンケートチェック)。